

令和6年度 北見カトリック学園 北見聖母幼稚園 学校評価

1. 教育目標

キリストに倣い、神を敬い、信じ・愛する心・感謝する心を養い更に祈る心を育てよう努める
子ども像

- 1、「ありがとう」「ごめんね」「いいよ」の心を素直に表現できる子
- 2、命の尊さを知り、すべてのものを大切にできる子
- 3、他者との違いを認め受け入れられる子
- 4、相手の気持ちを考えると共に自分の考えを相手に伝えられる子
- 5、人の話をしっかり聞き、じっくり考える子
- 6、強い心と身体で、自発的に行動する子

2. 教育目標達成に向けての令和6年度の重点

- (1)キリストの愛の精神『ありがとう・ごめんね・いいよ』の実践
- (2)特別支援教育・保育の充実(一人ひとりの発達段階に応じた支援のあり方を見つけ実践する)
- (3)園生活を通して神様の恵みに気づき感謝の気持ちを育て祈る(R6年度研修課題『神さまがそばにいるよ』)
- (4)【楽しい幼稚園】を目指し保育内容と職員研修の充実を図る

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.6	今年度から2歳児が満3歳児になった翌月から、3歳以上児クラスへ移行できるようにした。スムーズな移行ができるよう日々の活動の取り組み方を工夫した。3歳未満児クラスと3歳以上児クラスとの連携に課題を感じている。子ども達にとって「楽しい幼稚園」であるように今後も努めていく。
保育の充実と園児との関わり	3.7	園内研修で「保育交換研修」を行った。職員が他クラスの保育に入り、お互いの保育について意見や感想を伝え合った。また、3歳以上児職員が3歳未満児クラスに入り保育を行う研修も行った。職員同士が子ども達の育ちについて共有し、各クラスの保育について考える良い機会となった。
安全管理	3.8	コドモンを活用した登降園管理や保護者との連絡等、昨年度よりも、スムーズに行えるようになってきた。今年度も園バスの置き去り防止訓練を職員と園児で行った。更に11月には「緊急地震速報訓練」を初めて実施した。来年度は不審者対策訓練を行う予定。
地域の幼児教育機関としての役割	3.3	今年度も未就園児教室で地域の子育て支援の拠点としての役割を果たすことができた。少子化と共働き世帯の増加で、以前よりも利用は減少傾向であるが、今後も商業施設のポスター掲示やブログ等で、地域への情報提供に努める。来年度から、一時預かり保育(一般型)を実施予定。
教員の資質・能力向上	3.6	特別支援や虐待防止研修など、今年度も研修内容の充実を図ることができた。全員揃っての研修は難しいが、定期的に行い学び合うことができた。園外研修では、京都モンテッソーリ研修(札幌)、北海道カトリック幼保全道大会(札幌)、北弘幼道東ブロック大会(北見)、学園研修(北見)があり、参加することができた。各自が学んだことを園内研修で共有、実践へと繋げていく。
保護者との連携	3.7	今年度から「親子レク」と行事名を変え、全世帯の親子が公園に集合し交流した。共働き世帯が多いが、今後も保護者参加行事を通して、園と家庭、保護者同士の交流を大切にしていきたい。今年度も保護者アンケートを実施した。アンケート結果を今後の園運営や保育・教育に生かしていく。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 令和6年度の総評

結果	理由
3.6	・子どもにとって「楽しい幼稚園」であるために、保護者や関係機関との連携、職員同士の連携が今後も課題である。 ・換気や消毒など感染対策を継続している。今年度は集団感染による感染拡大は見られなかった。早めの受診など保護者の協力と園での感染対策(園児への食育指導・保健指導も含む)の成果と考える。 ・職員の研修は、今年度も積極的に参加し学びを深めることができた。研修受講後の情報共有と実践が課題である。 ・子育て支援事業として、「未就園児教室」や「子育て支援講習会」等を行っているが、参加者が減少傾向である。様々な要因が考えられるが、内容等の検討や地域への発信の工夫が必要である。 ・ICTの活用による通信類の配信や保護者との連絡等、昨年度よりも浸透してきている。保護者が、コドモンで連絡内容を読み返したい時に検索しづらい面がある。保育活動に必要な持ち物など、前日にコドモンで再度周知する必要がある。